

住民主体のまちづくり

No.47 2017. 11

編集発行：車尾まちづくり推進会議 事務局

■ 看護学校生が老人クラブと交流会

米子医療センター附属看護学校主催で「学生と老人クラブとの交流会」が老年看護学実習の一環として、車尾で生活している老人クラブ会員（24人の参加）との交流を通して、地域でいきいき暮らしている高齢者の現状を知る目的で、10月16日（月）車尾公民館で開催されました。学生（19人の参加）による「何だろう？ロコモティブシンドローム」と題して健康講座がありロコモティブシンドロームという言葉の説明そして症状の解説があり、この症状にならないよう椅子に腰かけた状態の体操の実技と食事の学習がありました。次にレクリエーションとして「後出しジャンケン」と「旗あげゲーム」で脳の活性化を体験しました。最後は学生が準備した緑茶・コーヒー・ぶどうジュースの飲み物、栗饅頭・アーモンドフィッシュ・かりんとう・チョコレートの菓子について体によい働きの説明付きで茶話会が準備され、6～7人ずつがテーブルを囲み笑い声が絶えない時間でした。



■ 特殊詐欺被害を防ぐ

地域モデル検証事業（その8）

特殊詐欺の内容や手口について日頃どこから情報を得ているかについて

全体では「テレビ・ラジオ・新聞」が93.9%で極めて高くなったほか、「チラシ・ポスター」45.8%、「家族との会話」29.9%、「警察やその他機関が実施している防犯キャンペーン」23.8%、「ご近所・ご友人との会話」21.8%と続いています。

性別では、男女ともに「テレビ・ラジオ・新聞」が9割以上で最多、次いで「チラシ・ポスター」

が4割台となった。女性は「家族との会話」と「ご近所・ご友人との会話」がともに3割台となって、会話からの情報収集が多くみられ、男性は「家族との会話」は3割弱と女性と大差ないが、「ご近所・ご友人との会話」は1割台にとどまっています。

年代別では、いずれの年代も「テレビ・ラジオ・新聞」が9割以上となり、「チラシ・ポスター」が3割弱から5割強で続いています。以下、60代以上では「家族との会話」が3割前後と高く、50代以下では「インターネット」が2割強となって、これらについては年代間での差がみられます。

高齢者を狙った詐欺被害が数多く報道されていますが、ご自身ではどのような防止策を心掛けていますか。

特殊詐欺への対応策（防止策）としては、全体では「留守番電話を活用するなど怪しい電話には出ない」が41.6%で最多、次いで「特殊詐欺被害について新聞等で自発的に情報収集する」が38.7%となり、以下、「日頃から困ったことがあれば、周囲や警察に相談している」と「特にない」が同率19.0%で続きます。「遠く離れていても、子供や近親者と頻繁に連絡をとるようにしている」は、15.8%となっています。

性別では、男性は「新聞等で自発的に情報収集する」が38.8%で最多、僅差の37.4%で「留守番電話を活用するなど怪しい電話には出ない」が続きます。一方、女性はこの順番が入れ替わり「留守番電話を活用するなど怪しい電話には出ない」が45.9%で最多となっています。

年代別でも、「留守番電話を活用するなど怪しい電話には出ない」と「新聞等で自発的に情報収集する」とが50歳未満以外のすべてで上位2項目となっています。50歳未満でのみ「特にない」が4割弱となっています。

自分たちのまちは自分たちで(つくる つなく つづける)